

都道府県・指定都市 及び学校名(児童生徒数)	仙台市 せんだいしりつふくおかしょうがっこう 仙台市立福岡小学校 (53名)
---------------------------	----------------------------------------------

(本研究に係る問い合わせ先)

所在地： 宮城県仙台市泉区福岡字堰添10番地

電話番号：022-379-2421

メールアドレス：fukuoka@sendai-c.ed.jp

学校のホームページのURL：http://www.sendai-c.ed.jp/~fukuoka/

【研究成果のポイント】

○研究のキーワード：

- ・地域や保存会に包まれて
- ・師匠と弟子の学び合い
- ・各学年での「道徳教材」

○研究成果のポイント：

- ・地域での発表や施設（特別養護老人ホーム「水泉荘」「泉和荘」）での発表を通し、本校の伝承活動が地域のみにとどまらず広い範囲で受け入れられていること。
- ・師匠（6年生）に指導を一任することはせず、教師がアドバイスや学びの方向性を毎時間示すことにより、活動内容がより明確になったこと。
- ・1年生から6年生までの「道徳の読み物教材」を通し、福岡地区に伝わる伝統文化をより身近なものとして考えさせると共に、やがて自分も踊れることに期待感を持たせる事ができた。

【研究の目的、研究内容】

(1) 研究課題

地域に伝わる伝統文化の学習を通して、 ふるさとを愛し、心豊かな児童の育成をめざす。 ～民俗芸能「鹿踊・剣舞」を取り入れた学習を通して～

(2) 研究課題設定の理由

360年ほど前に福岡地区に伝わった伝統芸能について興味・関心を持ち、各学年の児童が「伝承活動」を通しその成長段階に応じて地域に伝わる伝統芸能や地域（ふるさと）に自信と誇りを持ち、郷土や自分を愛する心が育つことを願い本課題を設定した。

(3) 研究体制

6年生の最後の発表（施設訪問）後、11月から2月まで、6年は師匠として4年生と5年生の弟子にマンツーマン形式での指導にあたる。（必要に応じて保存会の先生方に見てもらふこともある。「総合的な学習の時間」15時間）

2月の「引き継ぎ式」でその年度の活動が終わり、新年度4月からは保存会の先生方から細部にわたっての指導を受ける。（4月から11月までの15時間）

5年・6年担任が活動の中心となるが、発表時には全職員で取り組める体制にある。
（日常の衣装管理、補修、発表時交通手段手配等）

(4) 2年間の主な取組

平成22年度	・仙台市「青葉まつり」で発表（5月） ・「福岡夏まつり」（地域）で発表（8月） ・「冠のふるさと伝承まつり」（地域）・「学芸会」で発表（10月） ・特別養護老人ホーム「泉和荘」で発表（11月） ・1年生・2年生の「道徳教材」作成（11月～翌2月） ・「仙台市民俗芸能まつり」で発表（2月）
--------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成 23 年 度	<ul style="list-style-type: none"> ・保存会の先生方の指導開始（4月～11月） （＊ 「仙台青葉まつり」で発表予定だったが東日本大震災のため中止） ・地域の「夏まつり」で発表（23年度正式デビュー） ・「冠のふるさと伝承まつり」・学芸会・「水泉荘」(施設)での発表（10月・11月） ・教職員による「衣装や太鼓などの着付けの研修」 ・1年生～6年生まで全学年を通した「道徳教材」を使用しての授業実践
--------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(5) 具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

- ・保存会の先生方の指導及び師匠（6年生）による指導に入る前，一度全員で整列し児童と4年から6年の各担任3名でその日のめあてと活動内容を確認し共有した。
（共通理解）
- ・その日活動したことの反省（自己評価）及び師匠（6年生）からの評価を毎回反省カードに書いて児童が確認すると共に，各担任も児童一人一人のその日の活動の達成度と課題を知ることができるようにした。
- ・1年生及び2年生の道徳教材作成にあたっては，各学年の発達の段階に応じた道徳の指導時期に応じた文字数とページ数を考慮した。また，その内容については，1年生では学校生活の身の回りにある身近なものに題材を求め，また2年生については保護者がかつて自分も踊ったときの思いを資料とし，より鹿踊・剣舞への理解と踊ることの期待感が持てるような内容にして，郷土や先人への愛情を育めるように工夫した。

【研究成果とその意義等】

(1) 研究成果と課題

- 成果：①活動の前に，全員でめあてを共通理解する時間を設定したことにより，その日の活動の目標が明確になり，実践にリズムが出て効率よく活動できた。
- ②全学年の道徳の読み物教材ができたこと。1・2年生の「生活科」への位置付けも整理できた。
- ③地域や施設及び大舞台での踊りの披露の実践により，児童に自信を持たせることができたと共に，ふるさとの伝統文化に対する誇りを育てることができた。
- 課題：①「総合的な学習の時間」の他に，師匠（6年生）による業間や昼休み時間などの自主練習が多くなりすぎ，指導する師匠に緊張感が薄れた。「技」に重きが置かれ「心」の指導が追いつかない事が見え，さらなる指導の工夫を考える必要がある。
- ②「技」習得のため，業間や昼休みの時間がとれなくなってしまうことが多い。

(2) 研究成果の意義等

- ・活動前にその日のめあてを確認することは，児童や担任のみならず，指導して下さる保存会の先生方にも指導のねらいが分かり効果的だった。
- ・全学年にまたがった「道徳の読み物教材」を活用することなどにより，福岡の「鹿踊剣舞」に学校で取り組んでいることのねらいがはっきりし，伝承活動がやがてはふるさとを愛する心情へとつながる道筋がより明確になった。

(3) 指定期間終了後の取組

- ・必要に応じて，教材をより改善していく作業は今後も必要と思われる。
- ・「技」と「心」の育成に今後どう取り組んでいくか，活動を通して具体的な方策を考え続ける必要がある。
- ・地域の伝統文化に本校児童全員が6年間触れる事により，ふるさとを愛し，自分に対しての自信を持って成長することを願い，「総合的な学習の時間」・「道徳」・「生活科」などの教科を通し実践し続けることが本校「鹿踊・剣舞」の持つ最大の意義と考え，伝承活動の実践を続けていく。